



## 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当TEL (03) 3270-2701  
FAX (03) 3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2024/10/29  
SDS整理番号 01517350

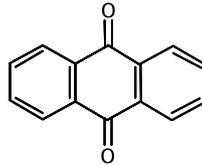
製品等のコード : 0151-7350

製品等の名称 : アントラキノン (9,10-ジオキサアントラセン)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) 染料中間体、パルプ蒸解剤 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性  
自然発火性固体  
水反応可燃性化学品: 区分に該当しない  
: 区分に該当しない健康に対する有害性  
急性毒性 (経口)  
急性毒性 (経皮)  
皮膚腐食性/刺激性  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性  
生殖細胞変異原性  
発がん性  
特定標的臓器毒性 (反復ばく露): 区分に該当しない  
: 区分に該当しない  
: 区分に該当しない  
: 区分2B  
: 分類できない  
: 区分2  
: 区分2 (血液、肺)環境に対する有害性  
水生環境有害性 短期 (急性)  
水生環境有害性 長期 (慢性): 区分1  
: 区分1

注意喚起語 : 警告

## 危険有害性情報

眼刺激  
発がんのおそれの疑い  
長期又は反復ばく露による血液、肺の障害のおそれ  
水生生物に非常に強い毒性  
長期的影響によって水生生物に非常に強い毒性

## 注意書き

【安全対策】  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しないこと。  
取扱い後は、よく手を洗うこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。  
環境への放出を避けること。

【応急措置】

眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察、手当を受けること。  
 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。  
 眼の刺激が続く場合: 医師の診察、手当を受けること。  
 漏出物を回収すること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	アントラキノン (別名) 9,10-アントラキノン、9,10-アントラセンジオン、 9,10-ジヒドロアントラセン-9,10-ジオン、 アントラセン-9,10-ジオン、 9,10-ジオキソアントラセン (英名) Anthraquinone (EC名称)、 9,10-Anthraquinone、 9,10-Anthracenedione (TSCA名称)、 9,10-Dihydroanthracene-9,10-dione、 Anthracene-9,10-dione、9,10-Dioxoanthracene
成分及び含有量	:	アントラキノン、98.0%以上
化学式及び構造式	:	C14H8O2、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	208.22
官報公示整理番号	:	(4)-686
化審法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	:	
CAS No.	:	84-65-1
EC No.	:	201-549-0
危険有害成分	:	アントラキノン

4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を流水と石鹼で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	:	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため)
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置  
 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
 風上から作業し、粉じんなどを吸入しない。  
 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。

- 環境に対する注意事項 : 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。  
 回収、中和 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。  
 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。  
 : 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。  
 : 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。  
 二次災害の防止策 : 周辺の発火源を速やかに取除く。  
 : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
 : 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
 : 粉じんの堆積を防止する。
- 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
 : 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの  
 : 取扱いをしてはならない。  
 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 : 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策 : 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。  
 保管条件 : 直射日光や高温多湿を避けて保管する。  
 : 容器を密閉して冷暗所に保管する。  
 : 必要に応じて施錠して保管する。  
 : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸化剤  
 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。  
 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標) : 日本産衛学会 : 設定されていない  
 : ACGIH : 設定されていない
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。  
 : 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。  
 : 粉じんが発生する時は防塵防爆型の換気装置を設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。  
 手の保護具 : 保護手袋を着用する。  
 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。  
 : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 : 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
- 性状 : 針状結晶  
 色 : 淡黄色  
 臭い : 無臭
- pH : データなし  
 融点 : 286  
 凝固点 : データなし  
 沸点 : 379~381  
 引火点 : 185  
 可燃性 : 可燃性  
 爆発範囲 : 粉じんと空気との混合で粉じん爆発の危険性がある。  
 : 下限 0.8 vol%、 上限 4.8 vol%
- 蒸気圧 : データなし  
 相対ガス密度(空気 = 1) : 7.2  
 密度又は相対密度 : 1.12 g/cm<sup>3</sup> (20 )  
 比重 : データなし  
 溶解度 : 水にほとんど溶けない(0.0014 g/L、25 )。

エタノール、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。  
 オクタノール/水分分配係数 : 3.39  
 発火点 : 650  
 分解温度 : データなし  
 粘度 : データなし  
 動粘度 : データなし  
 粒子特性 : データなし

GHS分類

自然発火性固体 : 発火点は650 であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。  
 水反応可燃性化学品 : 金属および半金属 (B, Si, P, Ge, As, Se, Sn, Sb, Te, Bi, Po, At) を含んでいないこと、および水溶解度が0.0014g/L(25 )であり、水に対して安定であると考えられるので、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

: 通常の取扱条件において安定である。  
 危険有害反応可能性 : 強酸化剤と混触すると、激しく反応して発火することがある。粉じんと空気との混合で粉じん爆発の危険性がある。  
 避けるべき条件 : 日光、高熱、火源、裸火、スパーク  
 混触危険物質 : 強酸化剤  
 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 マウス LD50 = 5g/kg (NTP TR 494 (2005)) 区分に該当しない。  
 経皮 ラット LD50 > 5000 mg/kg (IUCLID (2000)) 区分に該当しない。  
 吸入 (蒸気) 分類できない。  
 吸入 (粉じん) 分類できない。  
 皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない。  
 ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG 404) にて、刺激性なし (not irritating) の結果 (IUCLID (2000)) に基づき、区分に該当しないとした。  
 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) において、軽度の刺激性 (slightly irritating) の結果 (IUCLID (2000)) に基づき、区分2 Bとした。  
 眼刺激 (区分2B)  
 呼吸器感受性 : 分類できない。  
 皮膚感受性 : 分類できない。  
 モルモットを用いた皮膚感受性試験 (Intracutaneous Test) で感受性なし (not sensitizing) と陰性の結果 (IUCLID (2000)) が報告されているが、List 2の情報であり、OECDで承認された試験方法ではないので、分類できないとした。  
 生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない。  
 マウスの経口または腹腔内投与による骨髄細胞を用いた小核試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験) で、いずれも陰性の結果 (NTP DB (2012), IARC 101 (2012)) であった。  
 発がん性 : IARCの発がん性評価にて、グループ2Bに分類されている (IARC 101 (2012)) ことから、区分2とした。  
 発がんのおそれの疑い (区分2)  
 生殖毒性 : 分類できない。  
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない。  
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ラットの4ヵ月間吸入ばく露試験 (1日5~6時間) において、0.0122 mg/Lの濃度で血液像の変化 (ヘモグロビン濃度の低下、赤血球減少、網赤血球減少) と肺の病理組織学的所見 (気腫、無気肺、細胞増殖、血管周囲の充血と肺胞内腔の滲出液) が報告されている (IUCLID (2000)) ことに基づき、区分2 (血液、肺) とした。  
 長期又は反復ばく露による血液、肺の障害のおそれ (区分2)  
 誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性): 甲殻類(アミ) 48時間LC50 = 0.0942mg/L  
 (環境省リスク評価第1巻, 2002)  
 水生生物に非常に強い毒性(区分1)  
 水生環境有害性 長期(慢性): 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(良分解性、  
 BOD: 52.3%(既存点検, 1975))、水生植物(ウキクサ)に  
 よる8日間NOEC<0.01mg/L(環境省リスク評価第1巻, 2002)で  
 あることから、区分1とした。  
 長期的影響によって水生生物に非常に強い毒性(区分1)  
 残留性・分解性 : 良分解性。BOD分解度 = 52.3%  
 生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow = 3.39  
 土壌中の移動性 : データなし  
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない  
 ため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分量許可)を受けた産  
 業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して  
 廃棄物処理を委託する。  
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知  
 の上、処理を委託する。  
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま  
 埋め立てたり投棄することは避ける。  
 (参考)(1)燃焼法  
 可燃性の溶剤に溶解し噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)  
 等に混合又は吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室  
 で焼却する。  
 (2)活性汚泥法  
 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。  
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って  
 適切に処分する。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者  
 に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 171

国際規制

海上規制情報(IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 3077  
 Proper Shipping Name: ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.  
 (Zinc, shot)  
 Class : 9(有害性物質)  
 Sub risk : -  
 Packing Group : III  
 Marine Pollutant : Yes(該当)  
 Limited Quantity : 5kg

航空規制情報(ICA0-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 3077  
 Proper Shipping Name: Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s.  
 (Zinc, shot)  
 Class : 9  
 Sub risk : -  
 Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報(特段の規制なし)

海上規制情報(船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等  
 を定める告示に従う)

国連番号 : 3077  
 品名 : 環境有害物質(固体)  
 クラス : 9  
 副次危険 : -  
 容器等級 : III  
 海洋汚染物質 : 該当  
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類  
 : 非該当  
 少量危険物許容量 : 5kg

航空規制情報(航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に

従う)

国連番号 : 3077  
 品名 : 環境有害物質 (固体)  
 クラス : 9  
 副次危険等級 : -  
 少量輸送許容物件 : III  
 許容量 : 30kg (包装込みの質量)  
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。  
 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当。  
 ただし、R8年4月1日以降、次のように該当。  
 名称等を表示すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第151号「アントラセン - 9, 10 - ジオン (別名アントラキノン)」、対象重量%は 1)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第151号「アントラセン - 9, 10 - ジオン (別名アントラキノン)」、対象重量%は 0.1)  
 (規則別表第2)

毒物及び劇物取締法 : 非該当  
 消防法 : 非該当  
 化学物質排出管理促進法 (PRTR法)  
 : ・分類 類 「第1種指定化学物質」  
 ・政令番号 「1-50」  
 ・管理番号 「584」  
 ・政令名称 「アントラセン - 9, 10 - ジオン (アントラキノン)」

船舶安全法 : 有害性物質  
 航空法 : その他の有害性物質  
 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)  
 HSコード : 2914.61  
 第29類 有機化学品  
 ・輸出統計番号 (2024年1月版) : 2914.61-000  
 「ケトン及びキノン (他の酸素官能基を有するか有しないかを問わない。)並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体 - キノン: アントラキノン」  
 ・輸入統計番号 (2024年4月1日版) : 2914.61-000  
 「ケトン及びキノン (他の酸素官能基を有するか有しないかを問わない。)並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体 - キノン: アントラキノン」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。